

『学会開催報告』

第28回日本臨床細胞学会
北陸支部連合会学術集会The 28th Annual Local Meeting (The Hokuriku Branch)
of The Japanese Society of Clinical Cytology金沢市立病院臨床検査室病理
小林 雅 子

平成23年9月4日(日)、金沢大学附属病院宝ホールにおいて第28回日本臨床細胞学会北陸支部連合会学術集会を開催させて頂きました。本連合会は、北陸地方における臨床細胞学の進歩と普及を図ることを目的としています。細胞診専門医と細胞検査士を中心とした約300名の会員からなり、本学術集会は年に1度開催されています。台風によって前日から各種交通機関が運休となり、特別講演の先生や会員のご参加が心配されましたが、例年以上の参加者となりました。

特別講演では、子宮内膜細胞診の分野で第一人者である、則松良明先生(愛媛県立医療技術大学保健科学部臨床検査学科生体情報学講座教授)から「無排卵性周期に伴う機能性出血の細胞像;特にEndometrial Glandular and Stromal Breakdownについて」と題した講演を賜りました。無排卵性周期に伴う機能性出血の細胞像について、病態から組織・細胞像、さらには内膜癌との鑑別点などについて、細胞・組織写真を交えて分かりやすく、ご教授下さいました。この病態・細胞像を理解することで、内膜細胞診断の精度がさらに向上することが期待されます。

一般演題のセッションでは、佐藤勝明先生(金沢医科大学病理学Ⅱ)、高倉正博先生(金沢大学産婦人科)、寺畑信太郎先生(市立砺波総合病院病理科)の座長のもと、10題の演題が発表されました。婦人科領域では、高倉正博先生(金沢大学産婦人科)が「GFP発現テロメラーゼ特異的増殖型アデノウイルスを用いた末梢血中腫瘍細胞の検出」と題した研究結果を発表されました。今後、臨床現場で実用化が期待される検査法で、大変興味深く拝聴しました。橋本茂先生(金沢市立病院産婦人科)からは「子宮頸がん検診での細胞診におけるHPV検査導入の有用性」について発表頂きました。発表後は会場から、今後の子宮頸がん検診の方向性などについて多数の質問が寄せられました。症例報告として、上顎原発 plasmablastic lymphoma(新谷慶幸先生, 石川県立中央病院), 大脳CNS PNET(福田弘幸先生, 市立砺波総合病院), 子宮体部異所性癌肉腫(福井大学医学部附属病院, 堀江直世先生), 卵巣奇形腫(CNS PNET)による自己免疫性辺縁系脳炎(酒井哲也先生, 富山県立中央病院), 卵巣明細胞癌膀胱浸潤(青田彩先生, 金沢大学附属病院), 胸腺腫(嶋口智恵先生, 金沢医科大学病院), 肝細胞癌骨転移(有賀美紀子先生, アルプ病理研究所), 胆嚢未分化癌(石田勝政先生, 金沢医療センター)が発表されました。

稀少例が多く、細胞像の写真を提示しながら、診断上の留意点や鑑別点など詳しく解説頂きました。若い細胞検査士のみならず、経験豊富な細胞検査士や細胞診専門医にとっても、知見を深める有意義な発表ばかりでした。

スライドセミナーでは、川島篤弘先生(金沢医療センター臨床検査科)座長のもと、3題の細胞診断症例が話題されました。1題目は、今村好章先生(福井大学医学部附属病院病理部)が「心臓悪性リンパ腫」を出題されました。心臓の悪性リンパ腫は稀であり、また本例は肉眼像・色調がとても特徴的でした。色調は組織・細胞像を反映したもので、大変印象深い症例でした。2題目は、金谷太郎先生(金沢医療センター産婦人科)が「子宮頸部微小浸潤癌」を提示されました。細胞診断では判定が難しい病変であり、鑑別点や治療法を分かりやすく説明して頂きました。3題目は内山明央先生(富山県立中央病院病理診断科)が「膵臓房細胞癌」を出題され、膵腫瘍の鑑別法を丁寧に解説頂きました。また、本例はEUS-FNAによる標本であり、今後の膵腫瘍の術前診断にEUS-FNAによる細胞診断が重要な役割を担うようになる、という提言もございました。

最後になりましたが、当日は悪天候にもかかわらずご来場いただきました会員の方々にお礼を申し上げるとともに、本学術集会をご支援下さいました金沢大学十全医学会の皆様へ深く感謝いたします。また、学会開催にあたり、快く座長や演題・出題をお引き受け頂きました諸先生方、金沢大学分子細胞病理学の諸先生方、金沢市立病院のスタッフの方々には、心より感謝申し上げます。

